

《履修上の留意事項》【面接授業と遠隔授業の併用実施】

《担当者名》教授 / 青木 光広

【概 要】

骨・関節・神経・筋組織などの運動器に発生する主な外傷と障害について、病態生理、臨床症状、理学所見、診断法、予後、保存・手術治療、さらにリハビリテーション医療への展開について、整形外科的観点から学習する。これらを通じて、理学療法および作業療法を实践するうえで必要となる整形外科疾患の基礎知識と治療概念を学ぶ。また、歯科医療の現場で内科・外科等の各診療科との医療連携を実施するために役立つ知識、技術、態度の習得に寄与する知識を学ぶ。講義の前半と後半に解剖、手術、後療法の動画を交え、記憶に残る授業をおこなう。

【学習目標】

一般目標：

運動器に発生する多くの外傷・障害を扱う整形外科では、骨関節及び神経筋の病態を把握するために、以下の手順で目標に対する理解を深め、全体を学習する。

行動目標：

1. 整形外科疾患の病態を理解する。
2. 整形外科疾患の症状・理学所見・診断方法を理解する。
3. 整形外科疾患の保存・手術治療を理解する。
4. 整形外科疾患のリハビリテーション治療を理解する。

【学習内容】

回	テーマ	授業内容および学習課題	担当者
1	整形外科疾患の種類 骨折・脱臼・捻挫 創傷治療	骨折・脱臼の所見と徒手整復、捻挫の病態と治療を学ぶ 骨端線損傷、骨折治療、軟部組織の治療について学ぶ 教科書2-5, 9, 163-4, 316, 319ページ	青木 光広
2	整形外科疾患の種類 膝関節 変形性関節症	軟骨の変性と関節の変形、臨床所見と診断、保存治療と手術治療を学ぶ 教科書9-10, 209-212ページ	青木 光広
3	整形外科疾患の種類 股関節 変形性関節症 大腿骨頭壊死症	変形性股関節症の病態と治療を学ぶ 画像所見を学ぶ 運動療法を学ぶ 手術の種類を学ぶ 教科書204-0, 213-217ページ	青木 光広
4	整形外科疾患の種類 頸椎椎間板ヘルニア、頸椎症 頸椎後縦靱帯骨化症、脊髄空洞症	頸椎と構造と神経の走行、神経圧迫の病態、保存治療と除圧手術を学ぶ 教科書67-74, 75-81, 81-84, 48ページ	青木 光広
5	整形外科疾患の種類 腰椎椎間板ヘルニア、腰部椎管狭窄症、 腰椎分離症	腰椎の構造と神経の走行、神経圧迫の病態、保存治療と除圧手術を学ぶ 教科書86-92, 93-94, 97-99, 106-111ページ	青木 光広
6	整形外科疾患の種類 骨粗鬆症 脆 弱性骨折と薬物治療	骨粗鬆症の定義と骨代謝、骨密度計測、脊椎の脆弱性骨折、薬物治療と装具治療を学ぶ くる病・骨軟化症 教科書179-84, 185-87ページ	青木 光広
7	整形外科疾患の種類 脊髄麻痺、末梢神経麻痺	脊髄麻痺の種類（中心性と横断性）、FrankelとASIA分類、臨床症状と理学所見、除圧手術と運動療法を学ぶ 教科書339-43ページ 末梢神経損傷の病態と治療を学ぶ 教科書399-406ページ	青木 光広

回	テーマ	授業内容および学習課題	担当者
8	整形外科疾患の種類 骨・関節の感染症 骨・軟部腫瘍	化膿性骨髄炎、化膿性関節炎と人工関節周囲感染、化膿性脊椎炎、骨関節結核 教科書245-49, 250-53, 63-66ページ 骨・軟部腫瘍を学ぶ 悪性骨腫瘍に対する化学療法、罹患四肢温存再建手術を学ぶ 教科書256-68ページ	青木 光広

【評価方法】

期末テストを行う。(100%)

【備考】

教科書：鳥越精司 他 編集 「TEXT整形外科学 改定第5版 南山堂 2019年 ISBN 978-4-525-32055-3

参考書：青木光広 編 「からだの機能と運動療法 上肢・体幹」 メジカルビュー社 2013年
内山英一、青木光広 編集 「からだの機能と運動療法 下肢・骨盤」 メジカルビュー社 2014年

【学習の準備】

整形外科教科書の内容に基づき、講義内容ごとに予習・復習する(各80分)

講義中に説明した整形外科学用語を記述する小テストを授業の後半で実施し(20分)、整形外科領域での診断と治療について重要なテクニカルタームの意義を文章の中で再確認する。

授業の前半に10分間これまでの講義内容を復習し、授業の後半 20分間を小テストの語句を重点的に復習する。

【ディプロマ・ポリシー(学位授与方針)との関連】

DP2.「患者中心の医療」を提供するために必要な高い倫理観、他者を思いやる豊かな人間性および優れたコミュニケーション能力を外科・整形外科学の観点から身につける(プロフェSSIONナリズムとコミュニケーション能力)。

DP3.疾患の予防、診断および治療の新たなニーズに対応できるよう自己研鑽し、継続して自己の専門領域を発展させる能力を外科・整形外科学の観点から身につける(自己研鑽力)。

DP4.多職種(保健・医療・福祉)と連携・協力しながら歯科医師の専門性を発揮し、患者中心の安全な医療を実践するために必要な知識を外科・整形外科学の観点から修得する(多職種が連携するチーム医療)。

DP5.歯科医療の専門家として、地域的および国際的な視野で活躍できる能力を身につけるために必要な知識を外科・整形外科学の観点から修得する(社会的貢献)。

【実務経験】

担当教員は約6000例の整形外科手術を経験している。バイオメカや臨床解剖研究に20年間従事し、大学院生等40編以上の英文論文執筆指導を行う。死体解剖免許を有し、解剖標本に動きを加味した教科書を執筆している。医療大学病院整形外科外来を担当し、年間7000名余の診療実績を確保している。また、リハビリテーション科学部の大学院修士・博士を担当し、運動療法に関わる基礎資料の作成に当たっている。

【実務経験を活かした教育内容】

整形外科医師としての実務経験を活かした講義をすることで、歯科医療の現場で内科・外科等の各診療科との多職種連携の下でチーム医療を実践するために役立つ知識、技術、態度の習得に寄与する教育を実践する。